

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム 2020年度事業実施内容とその評価

	事業	中長期計画の 数値目標（評価指標）等	2020年度事業計画	2020年度実施内容	コンソーシアムの評価
目標Ⅰ 各大学間の連携の推進					
課題① 教育の質の保証・向上（授業内容）	共同FD（ファカルティ・ディベロップメント）	年延べ30名以上の参加	第2回「Oxford EMI Course 千代田区キャンパスコンソ」（2021年度予定）の企画・実施準備を行う。 その他、共同ファカルティ・ディベロップメントを企画し実施する。＜年延べ30名以上の参加＞	第2回「Oxford EMI Course 千代田区キャンパスコンソ」（2021年8月予定/千代田区キャンパスコンソ主催）の実施準備を行った。千代田区キャンパスコンソ以外からも参加できる公開プログラムとして位置づけ、2021年2月に参加者募集を開始した。 9月4日に「第21回法政大学FDワークショップ」（千代田区キャンパスコンソ共催）をオンラインで開催し教員8名が参加した。	数値目標を達成できなかった。 ニューノーマル下での実施方法の検討を含め、数値目標達成に向けて取組みを行う必要がある。
課題② 教育の質の保証・向上（教育研究活動等の適切かつ効果的な運営）	共同SD（スタッフ・ディベロップメント）	年延べ50名以上の参加	共同スタッフ・ディベロップメントを企画し実施する。＜年延べ50名以上の参加＞	9月4日に「公開IR研究会」（千代田区キャンパスコンソ主催）をオンラインで、千代田区キャンパスコンソ以外からも参加できる公開プログラムとして開催した。これに千代田区キャンパスコンソ内外の大学教職員等25名が参加した。また、同日「第21回法政大学FDワークショップ」（千代田区キャンパスコンソ共催）をオンラインで開催し職員91名が参加した。	数値目標を達成できた。
課題③ 各大学間の学生の交流の活性化	学生共同ボランティア	年間延べ100名以上参加	学生共同ボランティアを企画し実施する。 ＜年間延べ100名以上参加＞	新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施を見合わせた。	数値目標を達成できなかった。 ニューノーマル下での実施方法の検討を含め、数値目標達成に向けて取組みを行う必要がある。
課題④ 多様な学びの提供	単位互換の実施	2020（平成32）年度開始	単位互換制度の安定的な運用体制を構築する。 各大学による共同開講授業を検討する。	309科目を対象として単位互換を実施した。前期（春学期）20名、後期（秋学期）13名、合計延33名が本制度を利用して他大学の授業を受講した。受講科目数は年度合計で延41科目であった。また、単位互換科目受講生によるアンケート結果を分析し、制度の安定運用のための検証を行った。 複数大学で共同して授業を編成・開講することを共同開講授業分科会で検討し、2021年度から1科目を単位互換科目として開講することを決定した。	単位互換制度の安定的な運用体制の構築のための取組みを行うことができた。なお、新型コロナウイルス感染拡大により、各大学の授業はオンラインで実施することとなり、受講を辞退する学生が複数発生した。ニューノーマル下での安定的な制度運用に向けて引き続き検討する必要がある。 共同開講授業については、計画のとおり実施できた。
目標Ⅱ 各大学と千代田区（関係団体等を含む）との連携の推進					
課題⑤ 千代田区への研究成果の還元	「千代田学」事業	年5件以上採択	「千代田学」事業を通して研究成果を還元する。＜年5件以上採択又は共同研究課題1件以上採択＞ 各大学と千代田区の連携を推進する新たな「千代田学」事業の枠組みを検討する。	2020（令和2）年度の「千代田学事業」に加盟大学合計で5件採択された（大学ごとの単独事業4件（4大学）、複数大学による共同事業1件（2大学・1短期大学））。 共同研究分科会で「千代田学」の枠組みを利用した共同研究とその成果還元のあり方を検討した。	数値目標を達成できなかった。 ニューノーマル下での研究成果の還元方法の検討を含め、数値目標達成に向けて取組みを行う必要がある。 「千代田学」事業の枠組みを利用した共同研究とその研究成果のあり方の検討については、計画のとおり実施できた。
課題⑥ 地域コミュニティの活性化	地域向けイベント等開催又は参画	地域住民延べ千名以上の参加	研究成果の還元などを通じた、地域コミュニティ活性化に資する事業を企画し実施し又は参画する。＜地域住民延べ千名以上の参加＞	8月28日に地域の小中高高校生等を対象として「お野菜mottainaiプロジェクト カブ（蕪）の葉のアレンジ料理で、葉酸を摂ろう」（千代田区キャンパスコンソ共催）をオンラインで開催した。これに学生等を含め80名の参加者があった。	数値目標を達成できなかった。 ニューノーマル下での実施方法の検討を含め、数値目標達成に向けて取組みを行う必要がある。
課題⑦ 地域の教育支援	地域向け共同公開講座等の実施	年1回以上実施	地域向けの共同公開講座等の事業を実施する。＜年1回以上実施＞ 各大学と千代田区の教育リソースの共有や教育連携を検討する。	8月28日に地域の小中高高校生等を対象として「お野菜mottainaiプロジェクト カブ（蕪）の葉のアレンジ料理で、葉酸を摂ろう」（千代田区キャンパスコンソ共催）を、9月に社会人等を対象とした「働くうえで知っておきたい基礎知識」（千代田区キャンパスコンソ主催）を、それぞれオンラインで開催した。	数値目標を達成できた。 ニューノーマル下でのより効果的な実施方法の実現に向けて引き続き検討をする必要がある。

目標Ⅲ 各大学と地域産業界等との連携の推進					
課題⑧ 学生による地域産業振興支援	地域産業界との連携教育プログラムの実施	年1企業以上との実施	地域の産業振興に資する事業（連携教育プログラム等）を企画し実施する。＜年1企業以上との実施＞	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年度は当初予定していた「ぶらちヨダ」の実施を見合わせた。	数値目標を達成できなかった。ニューノーマル下での実施方法の検討を含め、数値目標達成に向けて取組みを行う必要がある。
目標Ⅳ 各大学と地方の大学との連携の推進					
課題⑨ 地方の大学との学生交流の活性化	相互参加型教育プログラムの実施	年1回実施	地方の大学の学生が参加する授業を単位互換科目として開講する。＜年1回実施＞	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、沖縄大学（那覇市）及び名桜大学（名護市）の学生も参加する単位互換科目である「現代政策学特講Ⅰ（千代田区）」「現代政策学特講Ⅱ（沖縄）」の実施を見合わせ休講とした。	数値目標を達成できなかった。ニューノーマル下での実施方法の検討を含め、数値目標達成に向けて取組みを行う必要がある。
目標Ⅴ 千代田区キャンパスコンソの運営基盤強化（千代田区キャンパスコンソが必要と認めた事項）					
課題⑩ 積極的かつ適切な情報公開	共同IRの実施と公表	年3項目以上分析・公表	共同IR報告書を作成し公開する。＜年3項目以上分析・公表＞	「【共同IR】数字で見る千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（2020年度）」を2020年10月に作成・公開した。この中で、千代田区昼間人口に対する5大学・2短期大学の学生数、5大学・2短期大学全体の入学者の出身地域（出身高校所在地都道府県）と卒業生・修了者の卒業後の就職地域（都道府県）、単位互換制度の状況（科目の受講者1人あたりの受講科目数、開講科目数に占める実履修科目数・割合等）を分析した。	数値目標を達成できた。
課題⑪ 地域リスクマネジメント	災害時連携体制の検討又は事業実施	年1回以上の検討・事業実施	教育研究に対する各種リスクへの対策を検討するとともに、リスクマネジメント体制を検証し、必要に応じて改訂を行う。	2020年9月に「リスクマネジメント体制に関する申し合わせ」に基づきリスク発生情報共有のための連絡訓練を実施した。また、新型コロナウイルス拡大リスクを低減するため各大学における対応状況を運営委員会の都度又はEメールにて情報共有した。	数値目標を達成できた。
課題⑫ 継続的検証体制の構築	事業取組み状況・効果の評価	①コンソ主催連携事業参加者の参加満足度（前年度比5%増） ②単位互換提供科目に占める実履修科目の割合（前年度差5%増）	事業取組み状況・効果について、①コンソ主催連携事業参加者の参加満足度（前年度比5%増）、②単位互換提供科目に占める実履修科目の割合（前年度差5%増）を指標として評価を行う。また、効果的な評価が可能となるよう、必要なデータ収集等を行う。	2020年度に実施した3件のコンソ主催連携事業（単位互換、公開IR研究会、社会人のキャリア形成のためのプログラム）の参加者アンケートにおいて、各事業平均87.5%の参加者が満足とする評価であった。単位互換開講科目数に占める実履修科目の割合は、前年度差マイナス3.5%であった（開講科目数は2019年度120科目、2020年度は309科目、そのうち学生が履修した科目数は2019年度17科目、2020年度は33科目）。2020年度は、3件の主催事業において参加者アンケートを実施し取組みの状況・効果の評価のためのデータ収集を行った。	計画のとおり実施できた。ニューノーマル下での効果的な検証と評価が可能となるようデータ収集等を継続して行う必要がある。
その他の事項（千代田区キャンパスコンソが必要と認めた事項）					
— 千代田区キャンパスコンソの教育リソースの情報公開	社会人・地域を対象とした教育プログラム・制度の情報提供	—	—	2021年3月に各大学・短期大学が有する社会人・地域向けの教育プログラムや制度の共同広報をウェブサイトを開始した。	中長期計画のビジョン・目標に掲げる、社会の人材養成に対する要請への対応、マルチ・ステージ時代に対応した学び直しに資する取組みである。

千代田区の意見

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、従来の形式で実施することができず、多くの事業についてオンラインで行う等、ニューノーマル下での効果的な事業のあり方について、試行錯誤が続いた事業期間であったと思います。「千代田学」共同提案事業では、コロナ禍の感染防止について地域の関心に対する成果の還元に関する提案もあり、タイムリーなことであったと思います、今後も地域課題解決に資する調査研究について、積極的にご提案いただくようお願いしたいと思います。さらに、2021年度はニューノーマル下での事業について検討し、モデル事業となるような提案を当コンソーシアムから発信していただけることを期待しています。

千代田区商工業連合会の意見

2020年度は、2018年度・2019年度に引き続き予定していた連携教育プログラム「イベントナビ運営体験プログラム」（ぶらちヨダ）が新型コロナウイルス感染拡大により実施することができませんでした。2021年度は、千代田区の新たな魅力を学生目線で紹介するという趣旨を生かしつつ、ニューノーマル下でも可能な方法で実施できるよう各大学と連携して取り組んでいく予定です。千代田区には様々な地域資源があり、ぶらちヨダなどの活動を通して地域の魅力や取組みに触れることができます。多くの学生に地域活動に参画してもらい自らの学びに生かしてほしいと思います。また、コンソーシアムには、引き続き、千代田区商工業連合会、学生・教職員、千代田区、地域住民などが連携して、魅力ある地域づくりに資する取組みを展開していくことを期待しています。